

一度は見ておきたい重要文化財シリーズ

奈良の旅編
その1

今回は「一度は見ておきたい重要文化財シリーズ・奈良の旅編 その1」と題し、歴史的価値、学術的価値の高い石仏や石塔をご紹介します、その魅力に迫っていきます。

観光情報も添えていますので、ぜひ実際に足を運んでいただき、その雰囲気を感じ、目でゆしみ、心で歴史に触れてみてはいかがでしょうか？

当麻北墓五輪塔（奈良県葛城市当麻）

当麻寺（たいまでら／当麻寺）は、奈良県葛城市当麻にある真言宗・浄土宗二宗の寺院です。612年、聖徳太子の異母弟である麻呂子皇子（まるこしんのう）が、河内国に万法蔵院を創立し、後に現在地に移して当麻寺と改称したと伝わっていますが、伽藍（がらん）配置の形式から、奈良時代の創立とされています。



鎌倉時代から当麻曼荼羅（まんだら）を中心とする浄土信仰の霊場として栄え、中将姫伝説や、**国宝の本堂・東塔・西塔など多くの重要文化財がある**ことでも知られています。

その当麻寺の北側斜面にある古い共同墓地に、**当麻北墓（たいまきたばか）五輪塔**があります。

五輪塔とは

五輪塔は平安時代に誕生したといわれる墓石デザインです。上段から「空輪」「風輪」「火輪」「水輪」「地輪」と呼ばれる墓石があり、それぞれ自然の五大元素を評しています。

「五輪塔」を建てると、亡くなった人はみな、最高の位と最高の世界へゆけるとされ、今日もなお、宗派を問わず「ありがたい最高のお墓」とされています。

五輪塔の他、お墓のデザインに関する記事がございますので、ぜひご覧ください。

◆お墓のデザインはどんなものがある？



当麻北墓五輪塔の特徴

凝灰岩製で、塔高は約245cm。切石加工した基壇の上に低い地輪があり、水輪は球形ではなく、棗(なつめ)やリンゴのような独特の形をしています。

火輪は、屋根のたるみが緩くなっており、軒も緩く反り返っていて、軒先がぶ厚くなっています。

地輪と水輪には四方に深く葉研彫り(やげんぼり/文字の凹みがV字になっている彫り方。陰影がしっかりとつき、文字が浮き出たように見えるのが特徴)された趣旨が見て取れます。



歴史

紀年銘が確認できないため、造立時期は不明です。しかしながら、

- ・花崗岩が普及する以前に多く用いられた凝灰岩を使用している
- ・空輪と風輪の間に、繋ぎの石がある
- ・重心の低い空輪の形状

といった点から、五輪塔のスタイルが定型化する以前である、平安後期の様式と考えられ、**大和地方(近畿地方)最古の五輪塔とされています。**

周辺の観光情報

当麻寺は牡丹の寺として古くから有名です。毎年4月中旬～5月上旬になると、当麻寺最大の庭園「奥院浄土庭園」では80種3000株の牡丹が色を競い、その名の通り当麻曼陀羅に描かれた極楽浄土を彷彿させる光景を見ることができます。

その他にも牡丹園が数ヶ所に分かれており、それぞれに異なった特徴が表現されているため大変見ごたえがあります。

まとめ

今回は、奈良県にある当麻北墓五輪塔をご紹介いたしました。平安時代や鎌倉時代の五輪塔が今も残り、その由来が語り継がれているということは、周囲の方が持つ故人への想いは、それはそれは深かったのであろうと想像できます。

供養の想いが時を経て受け継がれていくお墓。その佇まいを、ぜひ現地に足を運んで体感してみてください。



交通アクセス

〈鉄道〉近畿日本鉄道南大阪線・当麻寺駅(たいまでらえき)から徒歩15分

〈自動車〉●大阪市内方面から:西名阪自動車道「柏原IC」●名古屋・奈良市内方面から:西名阪自動車道「香芝IC」

●和歌山・関空方面から:南阪奈自動車道「葛城IC」●橋本・五條・橿原市内から:京奈和自動車道や大和高田バイパス利用